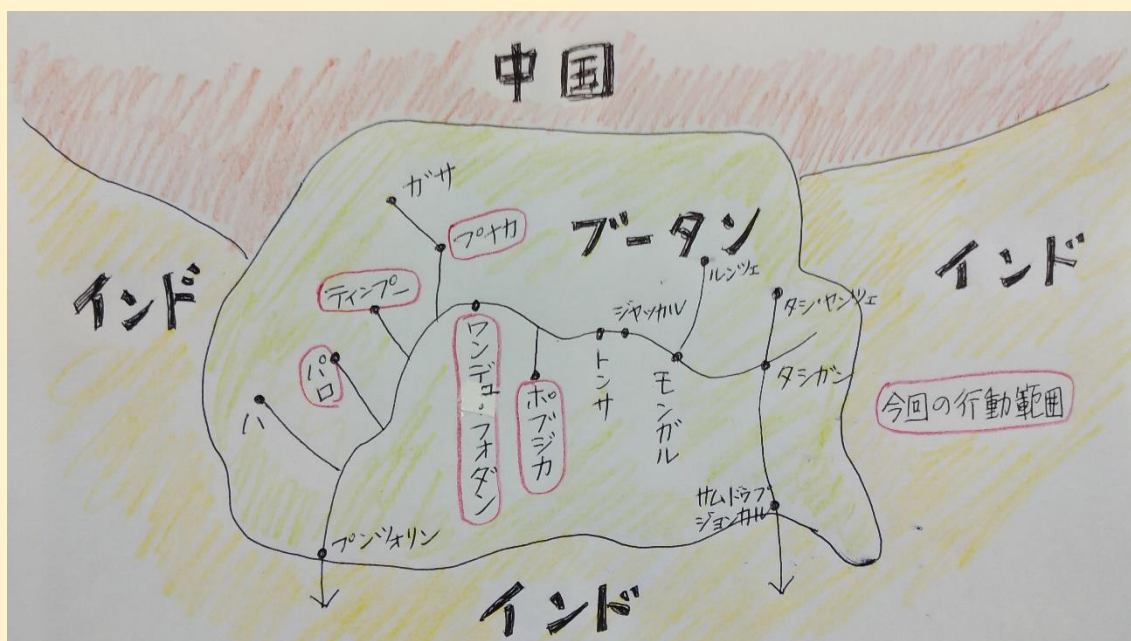


第2回 ブータン旅行

(2013年11月30日～12月4日)

二度目のブータン！ただポブジカ村に飛来するオグロヅルを見に行っただ。



2013年11月30日 (土)

タイ航空のエコノミークラスは辛い。前回は気分が悪くなるほどではなかったがそれでも疲れた。そして今回は更に悪かった。少しでも楽なようにと、しかし後ろの席の方の迷惑になってはならないのでなるべく座席は倒さずに、なるべく自分の体は後ろに倒れるようにと変な姿勢をとってしまったせいで気分がとても悪くなってしまった。余計なことをしてしまったおかげでその時は六時間のフライトの間ずっと苦しみ続け体調の悪さは飛行機を乗り換えて十時ごろブータンに着いて、更に昼頃まで続いた。そのためにせっかくのブータン航空(ドック・エアー)の美味しい機内食が食べられなかった。

ブータンのパロ空港に着き、ガイドさんたちと対面する。ガイドのウゲン・ウォンディ氏

は日本語が上手である。半年勉強したと言っていたが、二十年日本に住んでいる韓国語講師のI先生と同じくらいの感じである。日本語を話したいらしいので私の英語のレッスンは今回は棚上げである。

空港を出てそのあとティンプーに行く。ティンプーまではパロから車で一時間ちょっとである。ブータン衣装の専門店で購入した。中の上から上の下くらいの品物である。値段は25177ヌルタム。五万円くらいかな？手持ち金の半分をはたいてしまった。

買い物の前か後にどこかで昼食をとったはずである。でも具体的なことを何も覚えていない。不味かったという記憶もないから多分そこそこおいしかったのだろうと思う。でもこの日は写真がほとんどない。体調が悪くて写すのが面倒だったのだ。

その後ドチュ・ラ（峠）を越えワンデュフォダン・ゾン（城）などを見学しながらワンデュフォダンのドラゴンズ・ネスト・リゾートというホテルに向かう。そのホテルのロビーはちょっとした家の応接間のような感じだったが、着いた後部屋に入る前にそこでビスケットと紅茶をいただいた。



一泊目のホテルのロビー



ホテルの部屋の中

ところでこのビスケットだが、これ以後どこの町のどの店やホテルでおもてなしを受けても出てくるのはいつも一律にこの品物だった。別にブータンでは菓子の種類が少ないのだとバカにしているわけではない。でもこの「いつでもどこでも同じ」ということに、何かおかしさ、というか微笑ましさのようなものを感じてしまうのだった。

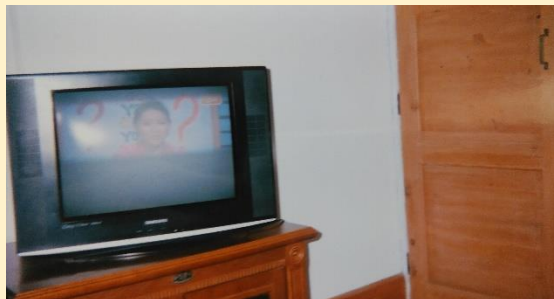
私が旅情を感じるシーンの一つがホテルの部屋で一人になった時だ。荷物を広げて整理をしたりお金の残高を数える。至福の時である。

去年来た時よりもはるかに家が増えているように見えた。ガイドさんもそう言っていた。でも建築様式や高さがほぼ揃っているのを見た目は良い。それとたまたまかもしれないが洋服を着る人が増えている。ガイドさんも運転手さんもどうやら二十五歳前後の若者たちだがホテルに到着後少したってから夕食時に顔を見せた時には洋服姿だった。どんなものを着ていたのかというとあまり具体的なことは覚えていないが日本の若い男性がオフの時に町を歩く時のような姿だった。尤も日本の今どきの都会のオシャレな男子のようなので

はない。もっとオーソドックスな感じであった。



バスルームの中のシャワールーム



テレビの画面を写すのは難しい



食堂はどこもこんな感じ



12月1日の朝食 手前はスクランブルエッグ

12月1日（日）

テレビの、多分NHKみたいなチャンネルで、朝六時からお祈りの時間がある。日本の大みそかの「ゆく年くる年」みたいな感じで各地の寺院や祈る人々の光景などを流す。いいもんだなあ、と思った。そういえば去年のパロの農家に民泊した時も、朝テレビでそのような番組が流れていた。

そのとき私は自分が家から被ってきたはずの、毛糸のモスグリーンのキャスケットが見つからないことに気が付いた。どこかでなくしたか？昨日パロ空港に着いて飛行機を降りる時に座席の下にでも落としたかな？帰りにパロ空港で聞いてみよう。そして見つからなくてもまあいいや、誰かが拾って使うだろう。

朝食についていたジュースがとても美味しかった。オレンジのようでもあるし、アプリコットのようでもあった。

“Do you know your child?”という番組があり、朝七時台に前日の再放送をやって

いた。登場していた女の子は Semmy ちゃんというようだ。十歳くらいに見えた。ぽっちゃりしていて裕福な家の子のような感じだった。どういう番組かというと「徹子の部屋」の徹子さんのような役割の女性とゲストの親子が対談する番組である。そういう場面だと親の知らない子供の一面を見ることができるというのがねらいのようである。司会の女性は Choni Zum Seldem というらしい。

朝八時から八時三十分までドラマを見た。ブータンの田舎が舞台だが韓国ドラマに似た雰囲気。俳優のしぐさが日本人より韓国人に近い感じがする。事情はよくわからなかったが恋愛ドラマだ。若い奥さんと他の男性との恋？でも夫のことも愛している？

女性には小学生くらいの娘がいる。泣いている母親を見る女の子がとても辛そうだった。「アッパー！」という女の子の叫び。やっぱり時々韓国語に聞こえる。

そのあとはコマーシャルか啓発番組か？昨日と同じ映像。ティンプーの見覚えのある街路も出てきて面白い。ブータンはどこをとっても絵になる素敵な国だ。この国で T シャツやジーンズというのはやっぱりそぐわない。他の国でやってくれ、という感じだ。ここには感動と安らぎがある。

朝、ポブジカに向けて出発する。途中のノブディンにあるレストランに昼前に着き昼食前に一時間ほど休憩。ここは前年にも来た。トンサ方面に向かう時の行きと帰りにそれぞれ立ち寄ったからすでに二回来ている。復路で立ち寄った際に例のリングで下痢？事件の起こったところである。でもここを通過する旅行者はまず必ず立ち寄る。ほかに食事をする場所がないからである。クエンペンレストランという名前である。そこで紅茶とビスケットをいただく。昨日ホテルでも出たビスケットである。



ダルシン（経文旗）祈りを風に乗せて・・・



天気良ければ庭での食事可



去年も立ち寄ったクエンペンレストラン



室内が去年より綺麗になっている

犬がたくさん寄ってくる。どうして今日はこんなに犬がいるんだろう？去年来た時には全く見なかった。しかも以前ティンプーで見た犬たちとは全く違う犬種の犬たちだ。薄茶色で毛がふさふさとしていてゴールデンレトリバーのような感じだ。彼らはビスケットが欲しくて集まってくる。でもとてもお行儀がいい。「ちょうだい、ちょうだい。」という顔をしてはいるが勝手に取ろうとしたりは決してしない。でも一匹に一枚やると離れたところにいるいた犬まで一斉にワッと集まってくる。こりゃあげないほうがいいなと思い、ビスケットを片付けたら諦めて引いて行った。

シンガポールから来たというグループがいて、その中の一人が私の写真を撮って下さる。



シンガポールからの方々



お行儀のいい犬たち

十二時くらいになって昼食をいただく。何だか去年の時より食べやすい。昨日からそう感じていたままたまかなあ？と思っていたが、やはり気のせいではない。前回の時に比べてどこも食事の味が変わって日本人の口に合うようになってきている。ブータンの観光業界は日々研究を怠らないのだろう。食事が終わってレストランを出発したのは十二時四十分ごろである。

やがて分岐点があり、右のポブジカ方面に進んでいく。左に行くと昨年言ったトンサや更に先のブムタン、タシガン方面である。ポブジカ方面に進むにつれてヤクをよく見るようになってきた。牛もいることはいるが圧倒的にヤクが多い。ポブジカは田舎の村だが思ったより広い平らな土地があり、思ったより家が多い。

ガンテ・ゴンパというお寺を見学する。昼休みで本堂がなかなか開かなかったのでゆっくりと待つ。少し寒い。日向ぼっこをしながらという感じである。あ、坊さんたちの衣、よく見るとキラだ。皆えんじ色である。どこのお寺でも。



ポブジカのガンテ・ゴンパ 最大のニンマ派寺院

ここにも犬たちがたくさんいる。さっきのレストラン周辺にもたくさんいたが、ティンプーの町中にいた犬たちよりも外国の犬に近い気がする。

お寺で参拝。お賽銭を5ヌルタム。お賽銭はいくらでもいいそうだ。1ヌルタムでも何万ヌルタムでも。

そのあと鶴を見に行くが遠くてあまり見えない。たくさんいることはいるのだがカメラには映らないかもしれない。

ガキリン・ゲストハウスというホテルに着く。広い平らな土地の地面の上に立っている、日本で言えば中規模程度のアパートのような形のこの建物はブータンのホテルとしては他で見たことがない形であった。もう十二月なのであるから寒くても当たり前なのだがブータンはそんなに寒い国ではないようだ。でもこのホテルは北国の宿、という感じでロビーに薪ストーブが焚かれていたりした。そこでまたビスケットと紅茶をいただく。

そのあと部屋に入って前日に買ったキラを着てみる。初め一人で着てみようとするが部屋に鏡がないし、布がたっぷりすぎて調整が難しく着付けがグズグズになる。ホテルの職員の女性にお願いして着付けていただき、ウゲン氏に写真を撮ってもらう。その後部屋に戻るとパッと停電する。仕方がなく食堂へ行き新しいキラを着たままガイドブックなどを読む。



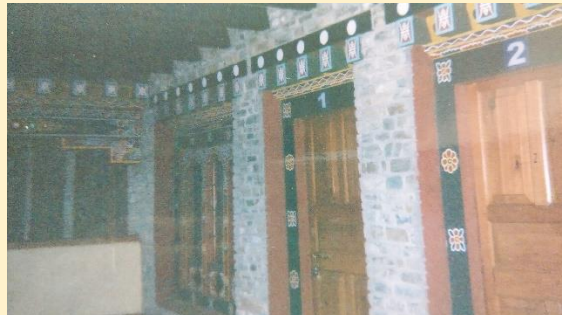
ガキリングストハウスのロビー 準備中



昨日買ったキラを着てみた



部屋の中 殆ど白木のままだ



部屋のドアの前 私は2号室

オーストラリアから来たご夫婦と、他にもう一人単独の欧米人の女性がいる。翌朝になってから尋ねたら、スイスから来たとのことであった。

家に電話をかけてみる。通じた。息子が出たので少し話す。鶴が遠すぎてカメラに映らないみたいだ、と言ったら「デジカメにしないからだ」と非難された。デジカメだと望遠になるのか？

ポブジカは標高3050m。部屋は二階だったが階段の昇り降りをするるとちょっと息苦しい。夕食まで食堂で過ごす。途中で自作のキラに着替える。楽で温かい。夜、雪が降り出す。

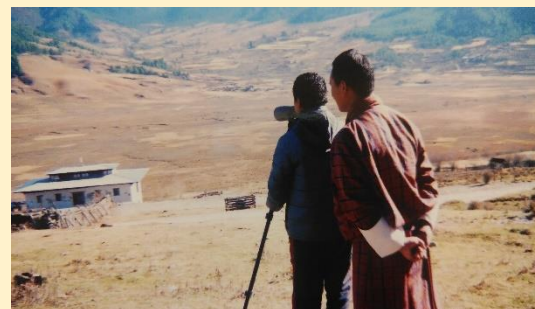
12月2日(月)

昨日の夕方から今朝にかけて鶴の鳴き声をよく聞いた。六時ごろ夜が明け初めた。六時二十五分、すっかり明るくなる。雪は積もっていない。ここはテレビがない。長い夜だった。

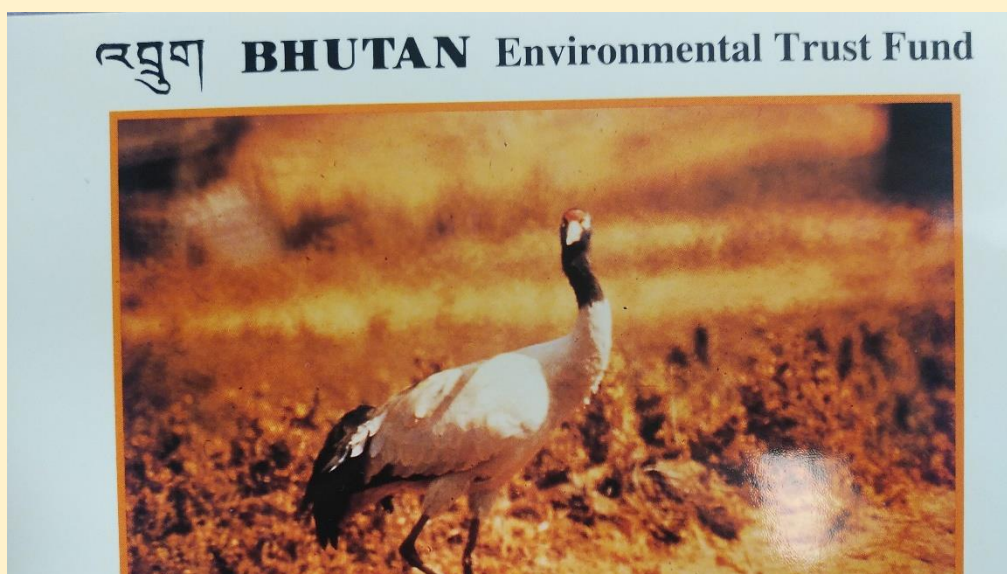
昨日キラの着付けをしてくれたあの青いテュゴ(上着)の女性の子らしい小さな男の子がちょろちょろと走り回り、その姉らしい十歳くらいの女の子が姿を見え隠れさせている。人懐こそうな男の子が手にブレスレットのようなものを持っているので「アニ、ガチ、モ?(それなあに?)」と尋ねてみたら「ラブチンネ」と言ったように聞こえた。



ポブジカは盆地です。鶴の姿が見えることは見えるのですが・・・



朝 10 時ごろ ガイドさんと自然保護協会の職員さん 鶴に接近することは禁止

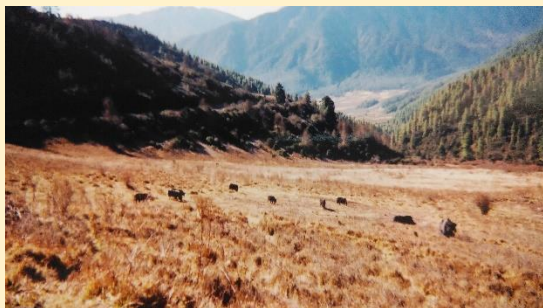


野生動物の撮影はやはりプロに任せましょう。これは絵葉書です。

帰り際、お世話になったお礼に袋入りのキットカットを女性に手渡してきた。帰路はヤクなどの姿や分岐点のラワ・ラという峠あたりの写真を撮りながら戻る。

ドチュ・ラで昼食の予定だったがそれだと少し遅くなるのもっと手前のレストラン（ガイドブックに載っていないところだったので名前はわからない）で昼食。ここでも食べにくいということはなく、しかしちょっとエスニックな風味であった。デザートにアイスクリー

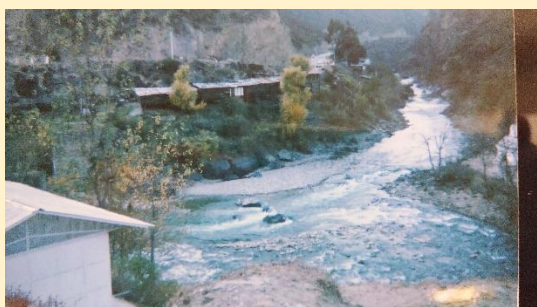
ムが出たので驚いた。ティンプーあたりのそれなりの店に行かなくては食べられないもの
だと思っていた。その後ここここで写真を撮りながらドチュ・ラを経てパロに戻る。



パロ方面に戻る道 この付近にはヤクが多い



分岐点の峠、ラワ・ラ 標高は3330m



チュゾムという所 二つの川、パロ・チュとティンプー・チュの合流点
右の写真はネパール、インド、ブータンそれぞれの様式の仏塔



こういう景色も好きだ。右は「鉄の橋」と呼ばれる。15世紀のものだそうである。

パロの空港のそばのホテル「カンクー・リゾート」は山の斜面に階段状に並べて建てられたコテージが並ぶ様式である。ロビーや食堂のある中央棟から宿泊棟のコテージまで昇り降りするのはちょっと息が切れる。食事はメイドさんたちが部屋まで運んでくれた。良かった！その晩食事をする客は私だけだったそうである。



夕食はルームサービス



カンクーリゾートのロビー

家に連絡すると夫が、タイのバンコクで起こっている民主化運動の暴動が激烈なようなので空港の外に出ない方がいいと言う。私は今回はバンコクでの長い待ち時間の間にちょっと街にでてみよう（つまりタイにちょっと入国する）と考えていたのである。ニュースを見てみると確かにめちゃくちゃ破壊された街並みの映像が出る。確かにひどい。でもそれでは空港で六時間もどうやって過ごしたらいいのだ？・・・ずーっと考えた。よく考えた。そして・・・

12月3日（火）

5：35起床。タイの事件の状況は、日本の東京に例えると、霞が関あたりで暴動が起きているから羽田に着いた外国人は空港の外に出ない方がいいと言っているようなものだ。そうだろうか？市民の暴動だろ？外国の軍隊が攻めてきたというわけでもあるまいし。渋谷あたりで買い物をしてすぐ空港に戻るのがそんなに危険か？まあバンコクに着いたら様子を見よう。

インドの首相が日本の天皇陛下にお会いになった？陛下がインドにお出でになった？ニュースでやっていた。ただし雑音だらけで音声は全く聞き取れなかった。でも放送局はけっこうたくさんあった。③チャンネルはBBCワールドニュース。でもバンコクのこととはちょっとしかやっていない。あとは中国のこととかウクライナのこととかチベット問題とか。それからエデュケーション・レポート・シンガポール。その他の話題。アメリカでの列車事故のこと。

⑤はCNN。同性愛のこととか？アメリカの列車事故の被害者の一人は夫人と三人の息

子を残して亡くなった。遺族に長いインタビュー。

⑥DW. ドイツ?クリスマス話題、他。ケニアの **Protections Poached Elephant?**象の保護のことだ。

⑦ブータンの番組。タベやっていたのの再放送だな。偉い人たちが鼎談をしていた。

⑧ネパールの局のようだった。

⑨ブータンのミュージシャンが歌っている。これも昨日の夜の番組の再放送の様だった。

⑩インドの放送の様だった。

⑥で、七時半ごろアン・ミカが出て大阪の案内をしていた!でもそれはほんの一瞬で、あとは北朝鮮のことなどをやっていた。

朝食の時ボーイさんに **egg** をエッキと言われてなかなか意味が分からなかった。それとこちらのコーヒーは薄い。だからミルクティーと同じように感じてしまう。

食堂の窓から飛行機が飛び立つのが見える。八時十五分ごろである。もちろん音もよく聞こえる。ここはパロ空港の本当にすぐそばである。

従業員の女性たちの髪型がお洒落だ。ふわっとしたアップにしたりして工夫を凝らしている。最近の流行なのかもしれない。昨年来た時に見たのやテレビや雑誌の写真で見るとブータンの女性の髪形はワンレンのストレートか後方で一つに束ねているか耳のあたりの長さのボブしかなかった。メイクもしていないのが普通のようにだったがこのホテルで見たメイドさんたちは軽くメイクをしているようであった。

若い男性たちもパーマをかけたり上向きに髪を立てたりしているようだ。皆短髪なので生まれつきなのかそうでないのかはっきりわからないが。

出国する際のパロ空港でのチェックの順番がようやく全部理解できた。一回目の時のことって忘れてしまうものなのである。

空港の売店で買い物をする。小さいガマグチ六個。これはブータンの織物で作られた製品である。それから手すき和紙のノートを二冊。手すき和紙は日本の技術指導で作られているそうである。それからピュアシルクのストールが素敵だったので買った。50ドルだった。全部で107ドルの買い物。一万円ぐらいか。」

空港で職員の方になくした毛糸の帽子のことを尋ねてみたが「ないね。」と即答されておしまい。まあいいや。どこかで誰かが使っていることだろう。日本以外では落し物が戻ってくるなんて期待してはいけないのだ。

そのあと出発ロビーの待合室の椅子の上で(他に考えられない)ボールペンを落としてしまったらしい。搭乗してから気が付いたがもう戻れないしこれもまた「まあ、いいや」である。私は旅行中によく物をなくす。去年も虫眼鏡をなくした。この程度のもので済んでいるからいいが、そのうち大物をなくすかもしれない。だからデジカメなんて怖くて持っていない。パスポートとチケットと現金を絶対なくさないように注意するだけで精いっぱいである。

ドック・エアーの機内は初めは半分くらい席が埋まっている感じだった。私は通路側の席だったが窓側にも真ん中にも誰もいなかった。離陸まで待ってみても誰も来なかったら窓際に座っちゃおうかなと思いつつ慎重に見ていたら少し離れた席から二十歳前後に見えるブータン人の女の子が「そこ、いいですか?」と言って移ってきてしまった。あーあ、先を越された! やっぱり日本人は遠慮深すぎ、慎重すぎるのだ。でも私は「お返しに」タイの入国カードを記入するときにペンを借りた。尤も彼女も前の席にいた連れの人から借りていたのだが。

その子の連れは少なくとも二人いた。同年輩くらいの女の子(安藤美姫に似ていた)と少し年上そうな男性。ほかにもいたかどうかはわからない。彼らは一緒にタイに入国した。観光旅行なのか他の理由で旅をしていたのか、それはわからない。

体調は問題がなかったので期待の機内食を一生懸命食べた。メインはカレー味のチキンとライス(インディカ米である)だった。エスニックな味。私は正直なところ日本のピラフの方が好きなのだがまあ仕方がない。でも往路のペンネ・アラビアータ、惜しかったな。

乗客は途中のバグドグラ(インド)で半分以上降りてしまいそのあとはガラ空きだった。こんなガラガラの飛行機に乗るのは初めてだ。

タイでの入国審査に一時間ほどかかった。そしてスワンナプーム国際空港地下一階の「エアポート・レイルリンク」の乗り場に向かったのはもう17:30ごろだった。乗り場には警官のようないかめしい雰囲気だったが親切な案内人がいてチケットを買うのを手伝ってくれた。乗客は欧米人観光客が多く、そう混雑してもいなかった。バンコク中心部で起こっているという暴動の影響らしいものも全く感じられなかった。電車はそう待つこともなく発車して快適に走行した。

目的地のラーチャープラロップの駅も広くゆったりしていた。しかしエスカレーターを降りて駅の外に出てみて驚いた。なんという混雑! ……例えてみれば東京の渋谷駅前の大通りの歩道のそれぞれの両側に屋台や出店が軒を連ねていて、歩行者はその間を縫って(多くは品物を眺めながら)歩く。つまり歩道はその幅の三分の一しか機能していないのである。

私はすでに頭の中に地図を叩きこんであり、目的地の店までわき目もふらずにまっしぐら……のつもりだったのだが、途中どうにも前進できなくて車道にはみ出さなくてはならないこともあり、しかもその車道たるや車とバイクであふれかえり信号もあってなきが如

しなのであった。

私もその状態には間もなく慣れて、車の間を縫って車道を横断したりなどしたが、それにしてその状態の歩道は延々といつ果てるともなく続くのだった。まっすぐ南へ1 km、そして右に折れて700 m、大通りだから間違えっこない、二十分くらいで目的地に着くだろうと思っていたがとんでもない誤算だった。

多すぎる人波のせいで周囲が良く見えない。しかも夕方六時過ぎだからもう暗い。BTS シーロム線に出会ったところから右折し、サヤーム駅をやっと過ぎ、目指すクラフトショップの「ロフティー・バンブー」の入っている大型店を探すが似たような（わかっていれば似ているわけでもないが）大型建物に惑わされるし、いやとにかく人が多すぎて良く見えない。今度こそ大丈夫、近くにサナム・キーラー・ヘンチャートの駅が見えるし、と思って入った建物の中は、いやまあ何百もあるのではないかと思うほど多くのショップが犇めいていた。

しかも三階か四回まであり、「え～、この中から探すのか？」という感じ。日本みたいに親切な店内案内図もないようだ。そして十分か二十分歩き回って「もう諦めよう。時間内に戻れなくなる」と思い出口を目指しかけたらすぐに「ロフティー・バンブー」に出会った。

そして急いで買い物を済ませた。高さ20 cmくらいのパッチワークのゾウの縫いぐるみを二体と、革製の、鳥の形で両面にペイントがされたキーホルダーを五個買った。お土産配布用の小袋を五枚つけてくれた。その時もう七時半だった。急がねばならない。乗り換えが面倒なのでさっきのラーチャープラロップ駅まで歩いて戻りたかったがそんなことを言っている場合ではない。あの道を歩く気はもうしない。

すぐそばにあるサナム・キーラー・ヘンチャート駅の入り口を見つけるのも大変だった。いや、それ以前にこの建物からの出口を探すのが大変だった。（この大型店はどうやら「マーブンクロンセンター」らしい。）しかし何とか駅にたどり着き、乗り換え駅、切符売り場、乗車ホームなどについて殆ど何も調べていなかったので人に聞き聞きようやく一駅先のサヤームまで行き、乗り換えて二駅先のバヤータイまで行く。そして一度外に出てエアポートレイルリンクの駅を探すが夜なので周囲が良く見えずわからない。仕方なくまた通りすがりの人に尋ねる。幸いすぐそこ、ではあったがどうも日本の感覚で考えると理解しにくい場所にあるのだ。でもとにかくどうにかこうにか無事にスワンナプーム空港駅に戻る。時刻は限度ギリギリの八時三十分。走り回って大汗をかいた。やはりタイは十二月でも日本よりずっと暖かい。日本の九月ごろの感じである。

パロから着いた時もそうだったが空港内はとて人多くて混雑している。いろいろな国の人がいるがどちらかというと欧米人が多い感じだ。日本人も中国人もアラブ系の人たちもたくさんいる。なんでこんなに人が多いのだろう？オフシーズンではないのか？でも後から思った。寒い季節だからヨーロッパから避寒客がたくさん来るんだな、と。

それからどうも四階の出発ロビーが見慣れない感じがする。去年こんな風だっただろう

か？それとも空港から一度外に出てまた入ってきた場合と、ただ乗り継ぎ待ちをしていただけの場合とでは通る場所がそんなに違うのだろうか？最後までよくわからないままに空いている椅子に座って食事をする。ブータン航空の機内食の残りである。

それから荷物の整理をして搭乗手続きや手荷物検査なども済ませ搭乗デッキに向かう。チェック後に買い物ができる免税店の様子も一年前とはだいぶ違う気がする。やっぱり変わったのであろうか？

落ち着いてからようやく家にメールをしたのは九時半ごろ。夫はきっとあれやこれやパソコンで私の移動する部分の状況をチェックしているのであろうな。

往路のように無理に眠ろうとして逆効果になることは避けようと思っていた。が座席は最悪のまん真ん中！お土産で手荷物が増えていたのでCAさんが強引に私のリュックを頭上の収納庫に上げる。

そのまま六時間半、まあまあ感じで過ごす。窮屈には窮屈だが眠れなくてもよしとしよう。成田からのバスの中で眠ればいい。そう思っていたら楽になった。少しウトウトもしながら無事に朝を迎える。機内食もしっかり食べる。チキンのお粥だったが、これは行きの時も同じようなものが出た。その時は超しょっぱくて食べられなかった。気分も悪かったし。でも帰りの時のものは適当な塩加減で全部食べられた。

成田に到着したのは翌12月4日(水)の予定より早い午前六時ごろだったがなぜか機外に出るまでにかなり時間がかかった。そして長い長い連絡通路となかなか出てこない荷物……。ようやく用事が全部済んでバスのチケット売り場のあたりまできたら6:40を回っていた。大宮行きのバスは7:45だが、までない。が、まあいいか。休憩したいし電話やメールもしたい。

それでまず家に電話。娘が出たので無事に成田に着いた旨を伝える。それから妹にメール。それから余ったタイバーツを両替所で日本円に交換する。ドルは全く余らなかった。その後キヨスクでお土産の不足分を買い足す。うまいことにタイ産のエビチップスを売っていたのでそれを買う。

バスは予定よりやや早く大宮に着き、家にはほぼ10:00に到着する。夫が家において、予定通りに植木屋さんが来ていた。義姉は入れ違いで帰った後だった。



タイとブータンのお土産の数々

【完】